

広報



8

2013
No. 100



WAKASAで夏を楽しめ！
NATSU男！
(世久見海水浴場)

創刊号

▼平成 17 年 5 月号／平成 17 年 4 月 22 日発行 A4 版 18 ページ

特集「輝きと優しさに出会えるまち！若狭町スタート」



若狭町がスタートしてから初めて発行した広報紙です。創刊号とあって、新町誕生を祝う開庁式典の様子や若狭町職務執行者の挨拶、第 1 回目となる若狭町長・町議員選挙についてのお知らせなどを掲載しています。

また、まちの話題では、グリーンハイツが新しく自治会として設置された記事を掲載しています。

第 10 号

▼平成 18 年 2 月号／平成 18 年 1 月 23 日発行 A4 版 18 ページ

特集「若狭町初の成人式」



初めて若狭町として新年を迎えて発行した広報紙です。若狭町第 1 号となる新成人を迎えた様子が特集されています。合併後とあって、町内の集落や自治会を知ろうとそれぞれの概要など、融和に向けた取り組みが紹介されています。表紙は、成人式の様子、また裏表紙には、消防団の出初式の様子を掲載しています。

第 20 号

▼平成 18 年 12 月号／平成 18 年 11 月 22 日発行 A4 版 24 ページ

特集「町内で進むビッグプロジェクト」



特集では、町内で始まったハード事業について紹介しています。当時紹介された塩坂越トンネルや五湖の郷は立派に整備され、住民の利便性向上や福祉の充実に役立っています。

表紙は、冬みず田んぼに飛来したコハクチョウの姿、また裏表紙では、JR 湖西線と北陸本線の直流化記念式典の様子などを紹介しています。

第 30 号

▼平成 19 年 10 月号／平成 19 年 9 月 21 日発行 A4 版 20 ページ

特集「小浜線は地域の宝」



特集では、10 月 14 日の鉄道の日に合わせて、地域の足となっている JR 小浜線が紹介され、環境保全や健康づくりを通じて住民の小浜線の利用促進を訴えました。まちの話題では、熊川で開催された鯖街道シンポジウムの様子を掲載しています。また表紙では、古代からの贈り物として町内で栽培されている赤米を掲載しています。

第40号

▼平成20年8月号／平成20年7月23日発行 A4版 28ページ

特集「身近に名水 名水が名水であるために」



8月号の特集として、瓜割名水の秘密や平成の名水百選に選ばれた熊川宿の前川が紹介されています。ほかにも、同年5月からスタートしたふるさと納税について紹介されています。特集だけではなく、表紙は赤十字水上安全法救助員養成講習会での訓練の様子、また裏表紙には名水まつりの紹介など「水」で統一しています。

第50号

▼平成21年6月号／平成21年5月22日発行 A4版 20ページ

特集「森下新町長インタビュー 対話と実行」



森下町政がスタートし、表紙には町長が初登庁した時の様子が掲載されています。特集でも、森下町長にインタビューした内容や新体制について掲載されました。また、同年4月に若狭町環境基本計画がまとまったことから、この回から環境についてのシリーズ「eco.com(エコドットコム)」を1年間にわたって連載しています。

第60号

▼平成22年4月号／平成22年3月23日発行 A4版 24ページ

特集「梅の里保育園 新園舎竣工」



特集では、町内初の民設民営の保育園「梅の里保育園」の新園舎竣工が紹介されています。また、まちの話題では、かみなか農楽舎が「オーライ！ニッポン大賞審査委員会長賞」を受賞した記事が掲載されています。裏表紙では、若狭町のふるさと大使に就任いただいた若狭町に縁のある5人の方を紹介しています。

第70号

▼平成23年2月号／平成23年1月21日発行 A4版 20ページ

特集「祝 成人式」

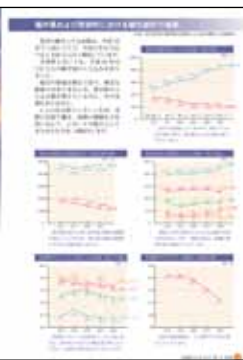


成人式の様子が特集されました。インタビューした新成人たちは、今後の夢や志を語ってくれました。ほかにも、所得税確定申告や町県民税申告の詳細も掲載してあります。表紙には、特集記事に合わせて新成人たちの晴れやかな姿が、また裏表紙では、美方高校食料科の生徒が考案した「もっちり梅きんづば」のレシピを掲載しています。

第 80 号

▼平成 23 年 12 月号／平成 23 年 11 月 22 日発行 A4 版 24 ページ

特集「若女将インターン生の挑戦」



町内の民宿で行われた若女将インターンについて特集しました。5 人のインターン生から若狭町の魅力や課題などを提言してもらいました。同年 8 月号からは若者の定住者を紹介する「住人十色」をシリーズで掲載しています。表紙には、園児たちの柿もぎの様子が、裏表紙にはふるさと大使をインタビューした記事を掲載しています。

第 90 号

▼平成 24 年 10 月号／平成 24 年 9 月 21 日発行 A4 版 24 ページ

特集「健康づくりはカラダからだ！」



敬老の日や体育の日に合わせて、健康づくりについて特集しました。特集では、フィットネスパレア若狭のトレーナーたちに協力してもらい、自宅に簡単にできるカラダづくりを紹介してもらいました。表紙では、米寿を迎えた夫婦の仲睦まじい様子が、また裏表紙では、熊川いづく時代村のチラシを掲載しています。

皆さんに、もっと必要とされる
広報紙を目指して

広報紙を発行する目的は、自治体からの行政情報を住民の皆さんにお知らせすることです。

お手元に届いた広報紙を読んでもらうことで、自治体と皆さんが同じ情報を共有し、同じ意識を共有することができるため、広報紙は、自治体にとって住民の皆さんと繋がる大切なツールのひとつと言えます。

まちづくりの主役は、この町に住んでいる皆さんであり、現在、町が置かれている状況や施策を皆さんに知ってもらって、反対に行政が皆さんの考えや意見を聞くことが広報紙の役割であると考えます。

皆さんに必要とされる広報紙を目指すためには、行政の努力はもちろんのことですが、いかに住民の皆さんと繋がれるかが大切だと思いますので、今後も広報わかさをご愛読いただきますようお願いいたします。

皆さんが今、手にとって読んでいる
「広報わかさ」ができるまで

①企画・編集計画

町の施策やお知らせ、住民の皆さんから寄せられた情報などから、特集内容を編集する編集計画を立てます。

②取材

詳しい情報や写真を撮影するために取材に出かけます。



③編集

取材した内容などを文章にまとめたり、写真を選んでレイアウトを編集します。



④第一校正、テスト印刷

編集を終えたデータを関係部署で校正してもらいます。印刷業者に試し刷りで写真の色などをチェックします。



⑤最終校正、入稿

第一校正をしたものを担当が修正し、再度関係部署で最終校正を行います。その後、担当課が最終チェックを行い、データを印刷業者へ渡します。



⑥印刷・製本

印刷業者が印刷・製本を行います。



⑦納品

毎月 23 日の全戸配布までに納品された広報紙は、他の全戸配布の書類などと一緒に各集落（自治会）ごとにまとめます。



⑧配布

契約した運送業者が、各集落（自治会）の区長などの元へ届けます。町外の方へは直接発送しています。



皆さんのお手元へ



まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)



▲学生たちにPRする生徒と若女将インターン生



わたしたちのまちづくり (6/15)

若狭町まちづくり大会が中央公民館で行われ、集落や地域づくり協議会の関係者ら約 200 人が参加しました。

この大会は、今春に小学校区単位で地域づくり協議会が設立され、住民主体のまちづくりの推進体制が確立したことを受け、地区や集落、行政がお互いの役割を認識して協働のまちづくりを進めようといわれたものです。

大会では、町内で地域づくりを実践している 3 団体の活動報告が行われたほか、男女共同参画プラン策定委員会の委員長を務めた熊谷和子さんから、昨年度策定した男女共同参画プランの概要について報告されました。

また、東京大学の大森彌名誉教授によるまちづくり講演も行われ、大森教授は「地域社会は、人の居場所を作る場。地域での活動は本人にとってもメリットがある」と、地域社会で活動することの大切さを訴えかけました。



▲あまさかベジタブルネットワークの活動報告をする竹内代表



▲明倫買い物クラブの活動報告をする小西代表



▲講演する大森名誉教授



▲策定した男女共同参画プランを説明する熊谷委員長



▲瓜生地区環境ボランティアの会の活動報告をする四本木代表



▲式典で祝辞を述べる森下町長



30 年の悲願 (6/15)

河内川ダム本体工事に伴う安全祈願祭が工事現場で行われました。

河内川ダムは、昭和 58 年に北川総合開発事業の一環として計画され、30 年の年月を経てようやく着工を迎えることができました。ダムの完成後は、洪水調整や流域における農業や工業用の水利として期待されています。

祈願祭では、関係者ら約 70 人が出席し、工事期間中の安全と、ダムの早期完成を願いました。

森下町長は、ダムの完成は地元住民の悲願であり、この日を迎えられたことは感無量。立派なダムの建設をお願いしたい」と祝辞を述べました。

ダムは、高さが 77.5 m、幅が 202.3 m で、完成は平成 31 年度を予定しています。



観光交流人口の増加を期待 (6/17)

（仮称）三方パーキングエリアスマートインターチェンジ（以下、三方 P A スマート I C）の設置にかかる高速道路との連結許可が国土交通大臣から下りました。

その伝達に、国土交通省福井河川国道事務所の松田好生副所長が若狭町を訪れ、許可証を森下町長へ手渡しました。

許可証を受け取った森下町長は、「スマート I C を活用して、産業や観光の交流人口の増加を目指したまちづくりに取り組みたい」と話しました。

（仮称）三方 P A スマート I C は、舞鶴若狭自動車道において、若狭町内では 3 か所目のインターチェンジとして計画されています。



▲松田副所長から連結許可証を受け取る森下町長



ヒーローがやってきた (6/18)

ご当地ヒーローの「五湖レンジャー」が町内の各保育所を訪れました。

この訪問は、全国の商工会青年部が地域との絆を深める活動の一環としてわかさ東商工会青年部が行ったもので、同青年部のメンバーが五湖レンジャーに扮して園児たちとふれあいました。

中央保育所では、登場した五湖レンジャーが、色画用紙と絵の具、五湖レンジャーのオリジナルぬりえを園児一人ひとりにプレゼントしました。

園児の田辺一花ちゃんは、「ピンクと握手した。もらった絵の具でみんなと絵を書きたい」と嬉しそうに話してくれました。



▲五湖レンジャーと一緒に記念撮影をする園児ら



未来を担う子どもたちへ (6/19)



▲目録を手渡す森下理事長（写真左）

小浜信用金庫から絵本が寄贈されました。

今回の寄贈は、同庫が行っている地域貢献活動の一環として企画された商品の売り上げの一部で、地元の未来を担う子どもたちのためにと、若狭町をはじめ、小浜市、おおい町、高浜町にある 24 の公立保育所に対して、100 冊以上の絵本が寄贈されました。

この日、同庫の森下充理事長が若狭町を訪れ、森下町長に絵本の目録を手渡しました。

目録を受け取った森下町長は、「素晴らしい絵本をいただいた。有効に活用させていただきたい」とお礼を述べ、森下理事長は、「地域を担う子どもたちの心の教育に使って欲しい」と話しました。



皇室へ若狭の旬をお届け (6/20)

皇室へ献上する福井梅の選別作業が、若狭町梅加工体験施設（梅の里加工体験館）で行われました。

福井梅は、三笠宮家と常陸宮家へ毎年献上しており、三笠宮家を通じて天皇家へも届けられています。

今年献上される梅は、梅干しに適した「紅映」と呼ばれる品種で、直径が約 4cm のものです。

選別作業では、JA 敦賀美方と町の職員の 4 人が手袋やマスクなどをして、青梅に傷が無いか、一粒一粒丁寧に確認して箱へ詰めていきました。

選別した青梅は、翌日に森下町長と JA 敦賀美方の瀬尾佳彦常務理事らが両宮家を訪れて、若狭の旬として献上しました。



▲一粒一粒丁寧に確認する職員ら



収穫して特産を知ろう (6/21)

三方小学校の 6 年生の児童が、向笠の梅園で梅もぎを体験しました。

この体験は、特産の福井梅について関心をもってもらおうと、町と連携して行われたものです。

19 人の児童たちは、あいにくの小雨が降る中、枝を手で支えたり、はしごに乗ったりして、たわわに実った梅を収穫していきました。

初めて梅もぎをした加藤愛結さんは、「しずくが落ちてきて濡れてしまったけど、たくさん梅をもぐことができた」と収穫を喜んでいました。

今回収穫した約 30kg の梅は、24 日に児童たちが梅干しとして漬け、秋には同校が栽培している無農薬米と一緒に味わう予定です。



▲梅もぎをする児童たち



子どもたちを守る！ (6/21)



▲不審者役の署員を取り押さえた教諭ら

上中中学校で、不審者が校内へ侵入した時のことを想定した訓練が行われました。

訓練では、生徒の親と騙って校内へ侵入しようとする不審者を、玄関前で阻止する現場対応が行われ、不審者役を務めた小浜警察署の署員との対応が試されました。

署員の本番さながらの迫力のある演技に、現場には緊張感が漂い、対応した教諭らは必死にさすまたを使って、刃物を持った不審者役の署員を取り押さえました。

訓練の様子をチェックしていた小浜警察署の林憲克警部補は、「さすまたに頼るだけではなく、動きを指示する人や相手の後に回り込む人など複数で連携することが大切」と話していました。



夏の優しい灯り (6/22)

夏の夜を楽しむ「ホタル観賞と陶の灯りの夕べ」が、熊川公民館で行われました。

この取り組みは、熊川宿ほたる生息研究会と熊川地区地域づくり協議会が、地域の活性化を目的に開催しており、今年で3回目となります。

少し薄暗くなってくると、来場者たちはビオトープへ会場を移して、ホタルの舞いを楽しみました。

昨年からの天候不順によりホタルの数は、例年より少なかったのですが、来場者たちは暗闇にホタルを見つけると大きな歓声を上げていました。

また、熊川宿の街道沿いには、陶器の灯ろうも並べられ、町内外から訪れた約400人が、優しい灯りが醸し出す幻想的な夏の夜を楽しみました。



▲ホタルが生息するビオトープに集まる来場者たち



収穫したてをどうぞ (6/23)

恒例の青梅まつりが、JA敦賀美方梅の里会館で行われました。

このイベントは、特産の福井梅の収穫時期に合わせて開催されており、訪れた観光客らは、収穫されたばかりの青梅を買い求めていました。

観光客は、店頭には並べられたさまざまなサイズの青梅を眺めながら、「梅酒を作りたいが、どのサイズが一番良い？」と店員に確認などして、希望の青梅を購入していました。

また、隣接する若狭町梅加工体験施設（梅の里加工体験館）では、美方高校食物科の生徒たちが梅ジュースづくりを観光客らに指導しました。



▲収穫したての青梅を買い求める観光客ら



▲梅ジュースをつくる児童たち



うめえ〜ジュースをつくろう (6/27)

梅の里小学校の1、2年生の児童18人が、若狭町梅加工体験施設（梅の里加工体験館）で梅ジュースづくりを行いました。

児童たちは、まず西田公民館の山本和男館長から福井梅についての話を聞き、その後、町の職員から作り方を教わりながら、青梅を容器に詰めていきました。

今回の体験では、冷凍した青梅を使ったので、10日間ほど保存すれば、梅ジュースのシロップが完成するそうです。

体験をした1年生の井口咲さんは、「梅ジュースは美味しくて好き。上手にできたので楽しみ」と完成を楽しみにしていました。



体も楽器♪リズムを学ぼう (6/28)

世界的に活躍するメキシコの打楽器演奏グループTambuco（タンブッコ）が三方中学校を訪れ、同校の吹奏楽部約30人の部員にリズムの講習会を行いました。

メンバーらは、部員たちと一緒に楽器を演奏したり、石や体を使った演奏を披露しました。

リーダーのリカルド・ガヤルドさんは、「音楽にはリズムが大事。生活の中でもさまざまなリズムを見つけて欲しい」と部員たちに語りかけました。

講習会に参加した柳原麻衣さん（3年）と吉田真菜さん（2年）は、「自然のものを使ってリズムをとるのはすごい。わたしたちも発想を広げて音楽に取り組みたい」と話していました。



▲体を使った演奏を披露するTambucoのメンバー



夜のあじさいも格別 (6/28)

若狭瓜割名水公園のあじさいがライトアップされました。

ライトアップは、例年、同公園管理組合が実施していますが、今年は、省エネや地域の活性化を目指す若狭瓜割エコビレッジ推進委員会も協力して行われました。

会場には、LEDの灯ろうやリサイクルキャンドル約600個が設置され、暗闇に色とりどりのあじさいが浮かび上がり、会場は幻想的な雰囲気になりました。

敦賀市から訪れた女性は、「ライトアップされると聞いて訪れた。こんな雰囲気は良いですね」と、満開のあじさいをカメラに収めていました。



▲ライトアップされたあじさいを写真に収める来場者



夏はマリンスポーツ！ (6/30、7/7)



▲カヌーを体験する参加者

カヌー体験教室が世久見海岸で行われました。
この教室は、若狭町体育協会が主催したもので、町内の親子ら 29 人がカヌーを楽しみました。

指導者からは、カヌーへの乗り方やパドルの使い方などを教えてもらい、ライフジャケットを着て実際に海へ漕ぎ出しました。

参加者は、最初のうちは漕いでも前へ進まず苦労していましたが、徐々にパドルを上手に使ってスイスイと海の上を進めるようになりました。

教室に参加した三方小学校 5 年生の河原康太くんは、「最初は思うように進まなかったけど楽しかった。次はもっと遠くまで行ってみたい」とマリンスポーツの楽しさを味わったようです。



さらなる地域医療を目指して (7/1)

レイクヒルズ美方病院の開設 10 周年記念式典が同病院で行われました。

同病院は、公立小浜病院組合が旧国立療養所福井病院を譲り受け、2003 年に地域密着型病院を目指して開設しました。

式典では、入江善二病院長が、「少子高齢化が進む中で、在宅での療養を目指す療養型病棟を持つ当病院の役割は大きい」と、地域医療へのさらなる貢献を誓いました。

また、来賓として出席した森下町長は、「これからも患者さんの目線に沿った診療を続けて欲しい」と話し、今後も地域医療が発展していくことを期待しました。



▲挨拶を述べる入江病院長



シーズン in サマー (7/4)

サマーシーズンの幕開けを告げる浜開きのセレモニーが、塩坂越海岸で行われました。

式典には、観光協会をはじめ、民宿や防犯、消防などの関係者約 30 人が出席し、期間中の海水浴客の安全と多くの入り込みを願いました。

式典の後には、海が豊かになりますようにと願いを込めて、関係者らがヒラメの稚魚約 600 匹を放流しました。

主催した若狭三方五湖観光協会の浜本一夫会長は、「観光業は今までになく厳しい。体験など誘客に向けて十分考えていきたい」と挨拶をしました。

海水浴は、8 月中旬まで町内 7 か所の海水浴場で楽しめます。



▲浜辺でヒラメの稚魚を放流する関係者

きずな

絆

～対話と実行～

若狭町長 森下 裕

「D」ポリスに学べ！」

サッカーの日本代表がワールドカップ出場を決めた日、東京の渋谷駅前交差点で一人の若い警察官が注目を集めました。「D」ポリスと呼ばれテレビや新聞で話題となり、警視総監賞も受賞されました。

彼は機動隊の広報係で、主に人出の多い場所で呼びかけを行い、人々を安全に誘導する仕事を担っています。この日も、ワールドカップ出場決定に興奮したサポーターが交差点を埋め尽くし、大変危険な状況になることが予想されたため、早くから交通整理を行っていたものと思われます。

「ルールとマナーを守りましょう」というストレートなお願いではなく、彼の呼びかけは大変見事なものでした。

「警備にあたっている怖い顔をしたお巡りさんも、皆さんと気持ちは同じです。皆さんのチームメイトです。チームメイトのことを聞いて下さい」「お互い気持ちよく、今日という日をお祝いできるよう、ルールとマナーを守りましょう」と、その場にいる若者たちに共感し、同じ気持ち、同じ立場の一人の若者として訴えたことが多くの人の心を捉えたのでしょう。指揮車の上から呼びかけるお巡りさんに周りにいた若者たちから声援が沸き起こると「声援もうれしいですが、皆さんが歩道に上がってくれる方がうれしいです」と切り返すなど、その場の状況に合わせた柔軟な対応に深く感心しました。

言葉はとても不思議なもので、同じ言葉でも相手の返事を「イエス」にも「ノー」にも変えることができます。気持ちのこもった言葉は必ず相手に届き、時には多くの人の心を動かします。挨拶の一つでも、互いの心を結びつける力を持っていると思います。

私も「ゆうトーク」などでたくさんの方とお話をさせていただく機会があり、本音で話ができる貴重な時間だと思っています。互いに言葉を交わすことで生まれる『絆』をこれからも大切に、町の発展のため皆さんとともに知恵を出し、汗を流していきたいと思っていますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

広報クイズ

しりとり
うずまき
クイズ



携帯でアクセス
メールでも応募してネ

■応募方法■

キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。5つあるブルーのマスのあるアルファベット順に並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想や意見、住所、氏名を書いて、「〒919-1393 若狭町総務課」（住所は省略可）まで送ってください。電子メールでも受け付けます（soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp）。正解者の中から抽選で5人に図書カードをプレゼントします。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締切 8月15日（木）必着。

◇キーワード◇

- ①土用の丑の日に食べる魚で、三方湖で獲れるクチボソは格別です。
- ②疑っていると、何でもないことでも疑ってしまうことを四字熟語で何と言う
- ③8月30日から「特別警報」を発表する予定の省庁はどこ？
（ヒント：本紙14ページを参照）
- ④おとぎ話「一寸法師」で、一寸法師をの体を大きくした道具
- ⑤和名で「鬱金香（うっこんこう）」と呼ばれる花は？（ヒント：咲いた♪咲いた♪〇〇〇〇〇〇の花が♪）

【ヒント】

高校球児たちの聖地
熱い戦いが繰り広げられます。
《答え》〇〇〇〇〇

- ⑥イギリスのウィリアム王子のロイヤルベビーの誕生が話題となっていますが「王子」を英語で何と言う？
- ⑦江戸時代に小浜藩の藩医として活躍し「解体新書」を翻訳した人の名前
- ⑧梅干しに多く含まれるこの“すっぱい”成分が夏バテ防止に効果！〇〇〇酸

①B		②			
⑤					
			⑧	⑥	③
A			D		C
			⑦	E	
		④			

●前回の答え「カサネコ」 ①ウミカニ ②ヒマワリ ③リトマス ④ステルカミ ⑤ミカワケ ⑥イチャイチャ ⑦ジンゴキ ⑧イセナ ⑨ガウ

HAPPY BIRTHDAY



Summer day



3歳です



井関 隼斗くん

8月4日生まれ（井崎）
親：誠浩・有佳里さん
お友だちと保育所で遊ぶのが大好き！みんなありがとう！



江戸 祐汰くん

8月10日生まれ（田上）
親：雅博・智美さん
お外で遊ぶのが大好き！
にいちゃんいっぱい遊んでネ♡



畠中 舜くん

8月14日生まれ（上野）
親：俊宏・琴美さん
大きくなったら、
キョウリコウブルーになるっ！



大島 みすずちゃん

8月21日生まれ（三方）
親：竜哉・敦子さん
お姉ちゃん、
いつも遊んでくれてありがとう♡



河原 柚葵くん

8月24日生まれ（井崎）
親：達也・智美さん
モンキーバイクで暴走中！！
元気が有り余ってます♪

このコーナーでは、8月に3歳を迎える町内にお住まいのお子さまに登場していただいています。
なお、ご応募いただいた方のみ掲載しています。
今回は平成22年8月生まれの3歳になるお子さまです。

今回の3歳ですは平成22年9月生まれのお子さまが対象です。掲載方法は、23ページの暮らしのカレンダーをご覧ください。

文芸ひろば

川柳

ほつと川柳

どつつさりの野菜を抱いて笑う母
馬鈴薯の花が咲く頃逢いましょう
田中 文子（堤）
福田真由美（武生）

川柳湖畔

いくつもの顔人さまにみせている
脱皮して遠いふる里甦る
大野 文子（井崎）
今川てる子（鳥浜）

短歌

上中短歌会

久びさの昨夜の雨にホウレン草
緑ゆたかに丈をのばし来ぬ
田中 一枝（天徳寺）
古塚の木々は切られて萌え出づる
吉田恵美子（脇袋）
前方後円を草は作りぬ

かきり歌会

日光浴に茶摘みをせんと娘と行けば
摘む手はづみて過ぎし日なつかし
石田 春子（井崎）
ひまわりと立葵には支えをと
山口賀代子（気山）
風強き中孫と杭打つ

俳句

若王子土筆俳句会

河鹿笛ながる故里ダム起工
麻暖簾旧家の土間は通り抜け
佐々木増治（若王子）
石田とし子（若王子）

小原乙花俳句会

一人居と言ふて淋しや袋蜘蛛
音も無く蜘蛛一心に網を張り
島津 初花（小原）
田中 文枝（南）